

コンピュータで便利な世の中に 金岡 幸二

1925 (大正 14) 年9月 20 日—1993 (平成 5) 年7月 30 日



インターネット創業者

情報ネットワークを実現

情報サービス産業をリード

技術力の必要性を実感

最高裁判所判事を務めた中新川郡東加賀村大崎野(現滑川市)出身の石坂修一の二男として生まれました。幸二は中

学校卒業後、軍隊の幹部を養成する学校を出て、特攻隊員として出撃する寸前に終戦を迎えました。日本にも技術力が必要だと実感した幸二は、東京大学工学部計測工学科に入学しました。

通信の自由化を実現

幸二は東京大学在学中に複雑な計算が短時間でできる「コンピュータ」という機械があることを知りました。富山に戻り、金岡家の養子となった幸二は、富山計算センター(現インテック)を設立。県内の企業に、当時とても高価だったコンピュータの共同利用を呼びかけました。

その後、幸二はだれでもコンピュー

タを気軽に使えるよう、コンピュータを通信で結んだ情報ネットワーク*を作りたいと考えました。当時は国が通信回線を独占し、実現は難しかったのですが、幸二は通信の自由化を唱え続けました。そして会社の業務を拡大し、日本の情報サービス産業をリードする存在として活躍しました。

また、富山国際大学を設置する富山国際学園の理事長として、私立の学校の振興にも尽くしました。

夢や志をかなえたポイント

- 技術を身に付けるために学ぶ
- 高価なものは、みんなで使う
- 時代に合わせて、決まりごとを変える



富山計算センター丸の内事業所パンチ室 (1968 (昭和 43) 年)